

1号機原子炉建屋ガレキ撤去工事における 瓦礫類の記録の見直しについて

2018年3月29日

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

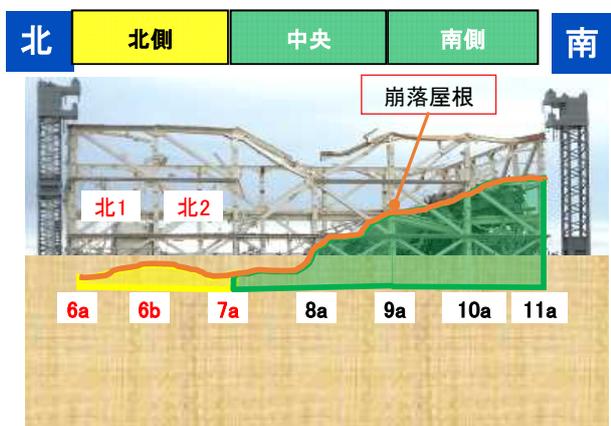


【ガレキ撤去の概要について】



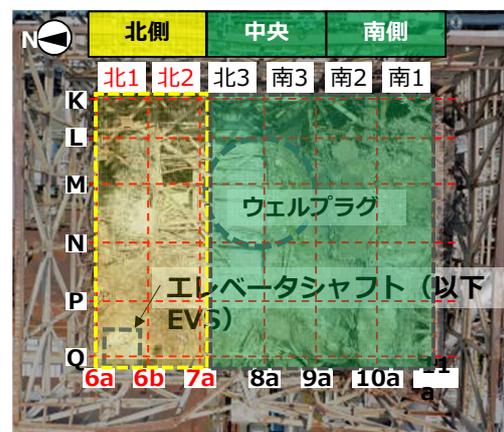
【撤去作業手順概要】

- ・ガレキ撤去は崩落屋根の調査が完了した北側から進める。
- ・工事にあたっては、作業範囲をエリアに区切って実施する。



- 北側撤去範囲(今回実施)
- 中央・南側撤去範囲(今後実施)

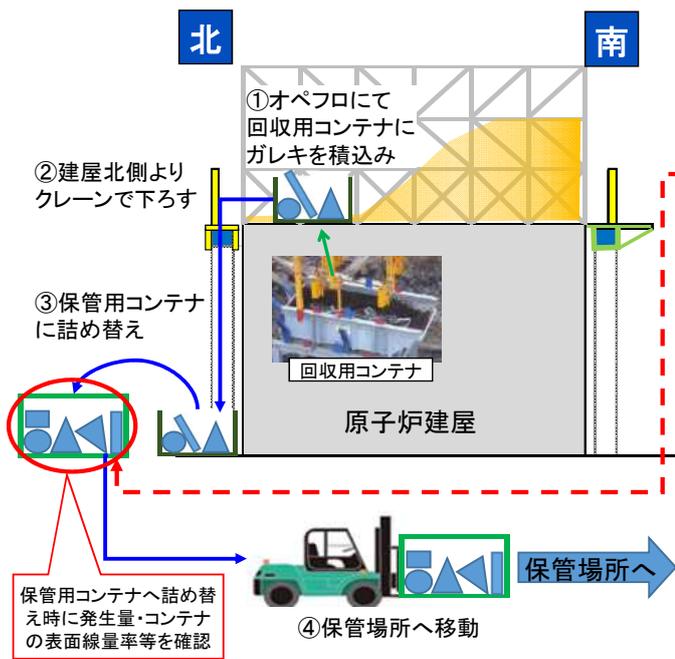
ガレキ撤去範囲断面図



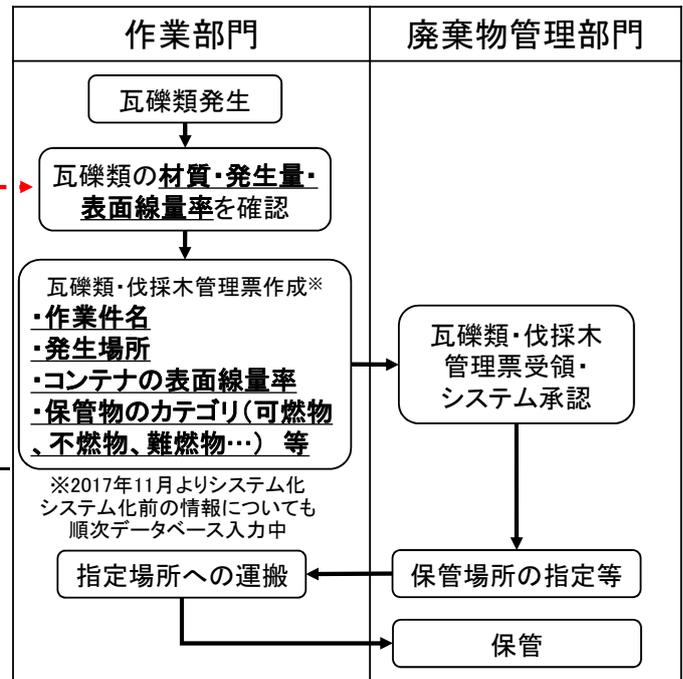
2017年6月撮影
オペフロを区画で作業範囲に分け、
撤去作業を実施する

ガレキ撤去範囲平面図

【ガレキ撤去から保管までの流れ】



ガレキ撤去から保管のイメージ
※吸引装置によるガレキの保管を除く



瓦礫類の収集・運搬・保管の業務フロー

【処理・処分を見据えた記録内容の見直し】

- ・処理・処分の際には、「材質」、「核種組成」、「放射能濃度」が重要な情報。
- ・現行の記録にも、同じまたは類似した情報あり。
- ・1号機原子炉建屋ガレキ撤去で発生するガレキの「核種組成」、「放射能濃度」については場所によって大きく異なる可能性
⇒後から「核種組成」、「放射能濃度」が大きく異なるガレキを識別するための情報として、より詳細な「発生場所」を記録する。

処理・処分の際に必要な情報	現在の管理方法における記録	記録内容の見直し
材質	有り (例:可燃物(紙・ウエス類、プラスチック・ポリ・ビニール類…)、 不燃物(金属ガラ、コンクリートガラ…)、 難燃物(ゴム類、難燃シート類…)等)	無し
核種組成、放射能濃度	無し (表面線量率を記録)	無し※
発生場所(具体的な位置)	有り (例:1号機オペフロ)	可能な範囲で細分化 (例:1号機オペフロK-L,6a-6b)

※SF設定方法等の値付手法について検討中

【参考】瓦礫類・伐採木管理票の例



瓦礫類・伐採木管理票 Ver. 001										計上No. -		
作業 主 管 G N 記 入 欄	保管希望日時	(土)			承認	審査	作成	固体廃棄物管理G記入欄			受付	
	作業名	【現行】1号機 オペフロ			捺印	捺印	捺印	受付番号			捺印	
	発生場所	【現行】1号機 オペフロ						調整後保管日時				
	作業主管	G			監視員	TEL		【保管時の指示事項等】				
	元請会社				担当者	TEL						
線量測定年月日	測定者	↓			測定器名	管理番号		β + γ 線量率				
	【提案】1号機 オペフロ(K-L,6a-6b)等							α汚染の有無		β + γ 線量率		
	2				m	()Sv/h	()Sv/h	()Sv/h	線量測定内容			
	3				m	()Sv/h	()Sv/h	()Sv/h	測定日			
	4				m	()Sv/h	()Sv/h	()Sv/h	測定No.	氏名	測定器	管理番号
5				m	()Sv/h	()Sv/h	()Sv/h	1				
注: α有、β α有の場合、α線量情報をここに記載のこと。												
保管 実績 記入 欄	No.	枝番	保管物名	測定場所 雰囲気線量率	表面線量率	β + γ 線量率	保管場所	保管日時	物量	再利用/ 減容可否	コンテナNo.	測定No.
				()Sv/h	()Sv/h	()Sv/h			m			
				()Sv/h	()Sv/h	()Sv/h			m			
				()Sv/h	()Sv/h	()Sv/h			m			
				()Sv/h	()Sv/h	()Sv/h			m			
*線量測定は保管場所があらかじめ決まっている伐採木等は省略する。再利用/減容が可能と推測される場合、再利用:RU、減容:VRと記載。固体庫保管時はコンテナNo.記載												

※カテゴリー	①	A	可燃物	01	紙・ウエス類	02	プラスチック・ホリビニール類	03	木材類	04	可燃物その他	05	-
				06	-	07	-	08	-	09	-	10	-
B	不燃物	01	金属ガラ	02	コンクリートガラ	03	機器類・制御盤類	04	土砂類	05	塩化ビニール類		
		06	保温材	07	石綿含有物	08	ケーブル類	09	アスファルトガラ	10	不燃物その他		
C	難燃物	11	フランジタンク本体	12	フランジタンク付属品	13	-	14	-	15	-		
		01	ゴム類	02	難燃シート類	03	ホース類	04	難燃物その他	05	-		
D	伐採木	01	伐採木(幹・根)	02	伐採木(枝・葉)	03	-	04	-	05	-		
		01	伐採木(幹・根)	02	伐採木(枝・葉)	03	-	04	-	05	-		
②	状態	D:乾燥, W:湿気有	③	履歴	A:「1F構内にあつた物」、B:「工事のために持ち込まれた物」								

注1: 可燃・難燃物は原則として透明袋に収納すること。注2: 伐採木の積み上げ高さは固体廃棄物管理Gの指示に従うこと。(最大で5m以下とする。)
 注3: 飛散抑制等必要な措置を講じ運搬し、保管エリアに応じた飛散防止(養生、容器収納等)を施し保管すること。注4: 塩化ビニール類については可燃・難燃側に持込みのこと。
 注5: β汚染の場合、表面線量率欄には「γ」のみの線量率を記載し、β + γ線量率欄に「β + γ」の線量率を記載すること。β汚染無の場合は、β + γ線量率の記載不要。